

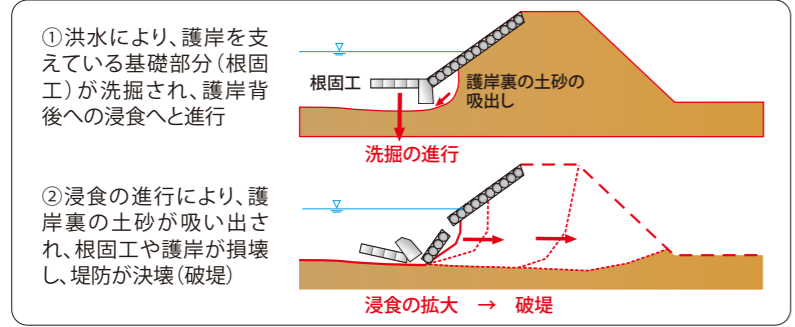
# 姫治川をめぐる

姫川は、今なお隆起を続ける標高3km級の北アルプスから日本海までを一気に流れ下る国内屈指の急流河川です。急峻な地形に加え、流域にはもろく崩れやすい地質が分布することから、大規模な崩壊が頻発し、それに伴って大量の土砂流出が続いています。凄まじい流れによる浸食と土砂の異常堆積から、姫川は“難治の川”とされています。

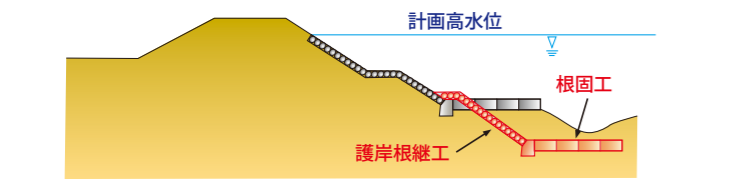
## ●●●平成7年洪水の様子●●●



糸魚川市上川(今井橋上流右岸) 平成7年7月洪水では、激しい流れにより護岸の基礎部分が洗掘により破壊され、さらには堤防が決壊し、洪水が国道等に氾濫しました。堤防をオーバーフローせずに決壊したことから「越水なき破堤」と言われています。



## ●●●堤防を守るために●●●



護岸根継ぎ対策の施工 護岸の補強対策として、洪水時の洗掘深よりも深い位置まで護岸の基礎を継ぎ足す「根継ぎ工」と十分な重量のコンクリートブロックを用いた根固工の施工を順次進めています。(写真は埋め戻し前の状況)



石張りの施工 姫川の堤防は、激しい流れに抵抗するため長径30~50cmの玉石張り護岸で覆われています。永年かけて築かれた護岸の石、ひとつひとつに、洪水から地域を守るために施工に携わった石工(いしく)の思いが積み上げられていると言えます。

姫川の鎮静を祈る

頭山の水神碑 姫川が増水して氾濫の危険が高まると、現在ではパワーショベルやコンクリートブロックなども用いて水防が実施されます。こうした資機材の無い時代、姫川が一旦暴れ出すと対抗する手段を持たない当時の人々は「早く鎮まって欲しい」とただ祈るだけだったものと思われます。姫川の沿川には「水神の碑」や修行僧が人柱となったとされる「行人塚」など、当時の人々の願いが形として残されています。

寺島の行人塚

## ●●●稗田山の大崩壊●●●



1911年(明治44年)、長野県小谷村の浦川上流にある稗田山が突如大崩壊を起こしました。崩れた土砂は姫川をせき止めて湖を形成し、翌年にはせき止め湖の決壊が起こり糸魚川市内まで大きな被害が発生しました。現在もなお、浦川流域からは大量の土砂流出が続いています。稗田山の崩壊は「日本三大崩れ」のひとつに数えられています。



# 流域に秘める ロマンを採る

姫川かわまちづくり×糸魚川世界ジオパーク  
**姫川ふれあい石公園**  
 ~姫川の石たちが集まる~



なんという名前の石なんだろう?  
 どこから流れてきたのだろう?  
 いつ、どうやってできたのだろう?





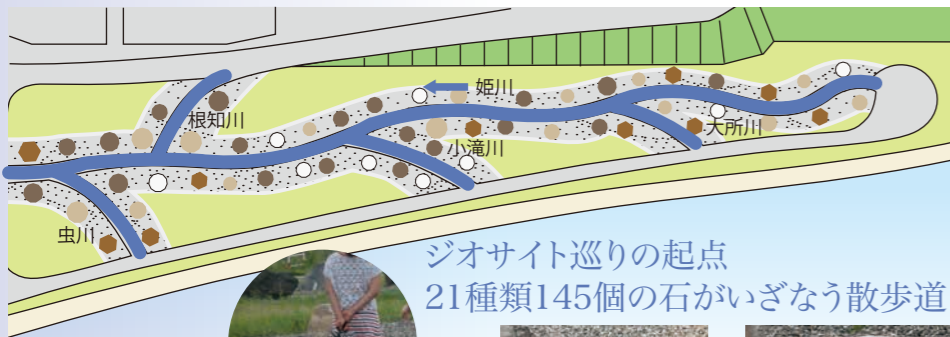
姫川かわまちづくり事業 **姫川ふれあい石公園**

姫川の石たちが集まる

姫川ふれあい石公園は、地域の文化・観光振興と河川整備が連携した「姫川かわまちづくり事業」により整備されました。



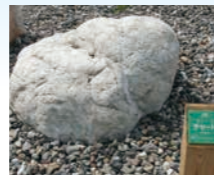
姫川を模した園路を河川敷に整備し、各支川に産出する岩石を展示



ヒスイ原石(ひすいげんせき)



蛇紋岩(じゃもんがん)



チャート



ぎつね石



石灰岩(せっかいがん)



「ヒスイ?!」のような曹長岩(そうちょうがん)



変はんれい岩(へんはんれいがん)



角閃岩(かくせんがん)



砂岩(さがん)



含礫泥岩(かんれきでいがん)



粗粒玄武岩(そりゅうげんぶがん)



溶結凝灰岩(ようけつぎょうかいがん)



薬石(石英斑岩)やくせき(せきえいはんがん)



凝灰角礫岩(ぎょうかいかくれきがん)



流紋岩(りゅうもんがん)



凝灰岩(ぎょうかいがん)



ひん岩



花崗岩(かこうがん)



安山岩(あんざんがん)



姫川流域は特徴ある地形・地質、歴史ロマンの宝庫



2 糸魚川・静岡構造線 断層露頭(糸静線・塩の道(北部)ジオサイト)



5 国指定天然記念物・小滝川ヒスイ峡(小滝川ヒスイ峡ジオサイト)



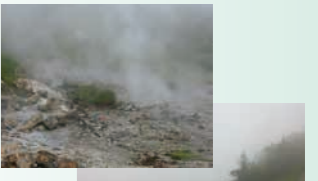
3 往時が偲ばれる塩の道(糸静線・塩の道(南部)ジオサイト)



4 虫川の不動滝(今井ジオサイト)



8 日本百名山・雨飾山(雨飾山ジオサイト)



9 噴気と露天風呂(蓮華ジオサイト)



10 日本海から北アルプス(梅海新道ジオサイト)



青森県教育庁文化財保護課所蔵

精巧に加工された糸魚川産のヒスイが青森県の三内丸山遺跡から出土しています。数千年前の縄文時代に硬いヒスイを加工し、それを持って遠方と交流する「ヒスイ文化」が存在しました。また、諏訪大社の祭神「建御名方神(たけみなかたのみかみ)」の母親とされる奴奈川姫(ぬながわひめ)にまつわる伝説や、上杉謙信が「義の塩」を送ったとされる塩の道など、姫川流域には歴史・文化のロマンに満ちています。

「かわまちづくり支援制度」とは

景観・歴史・文化等の河川が有する魅力を観光資源などとして地域振興に活かすため、河川管理者と地方公共団体・地元住民との連携により、河川や水辺の整備・利活用の推進を図る施策です。

「ジオパーク」とは

ジオパークとは、地球や大地を表す英語の『ジオ(Geo)』と公園の『パーク(Park)』を合体させた造語で、文字どおり「大地の公園」という意味です。貴重な「地質の宝もの」やその地域の自然・文化をまもり、かつ多くの人に知ってもらい・訪れてもらうことを目的としています。糸魚川市はユネスコが支援する「世界ジオパークネットワーク」の審査を通り、2009年8月、日本で初めての「世界ジオパーク」に認定(2013年9月に再認定)されました。

糸魚川世界ジオパーク

「地質の宝もの」と、そこに育む自然・文化にふれあう

世界ジオパークとしてユネスコの認定を受けている「糸魚川ジオパーク」には、ジオサイトと呼ばれる24箇所の見どころがあります。このうち、姫川流域には10箇所のジオサイトが含まれます。



1 姫川の眺望(美山公園・博物館ジオサイト)



6 溪谷美(姫川溪谷(大系線)ジオサイト)



7 崩壊・土石流の現場(姫川溪谷ジオサイト)